

さんま通信



厚生中央病院だより 第27号 2011年

秋



6階南病棟を紹介します。

6階南病棟 看護師主任 出水 訓寿

当院6階南病棟は、循環器内科と消化器内科の2つの科の患者さんが主に入院してきます。循環器内科では、狭心症や心筋梗塞、心不全といった疾患が多く、消化器内科では、大腸ポリープや胃潰瘍など検査目的や点滴で治療する患者さんがほとんどです。心臓カテーテル検査では、クリニカルパスを使用して退院するまでの経過が一目で解るようにスタッフがパンフレットを活用しながら丁寧に説明を行います。患者さんも「今日はこの検査で、明日の検査はこうにするんだね、検査後はこうするんだね」等、理解できるように不安の軽減に努めています。心配事があれば、どんな些細なことでも結構ですので看護師にご相談ください。

検査入院以外では、点滴治療や内服コントロール、食事指導を行うことがメインで、患者さんを含め、ご家族にも協力を受けられるように話しをさせていただいております。入院前の生活習慣を尋ねることによって、退院後の生活で注意することや内服の管理方法など、患者さん・ご家族・薬剤師・管理栄養士・看護師が一緒になってよりよい方法を考えられるように看護を行っています。また、点滴を行う患者さんに対しても、医師と連携を図り一日でも早く点滴が外れるようにモニターや血圧、症状などを注意深く観察して患者さんの状態を細かく診ています。心臓病と聞いて怖いと思うかも知れませんが、入院生活の中では、医師や看護師がすぐに対応できるように訓練していますので安心して治療に望めると思っています。また、今年の4月より消化器内科と消化器・一般外科が統合して消化器病センターとして新たにスタートしましたので、手術となった際にはスムーズに外科で診察できる体制となりました。

看護師も循環器・消化器の専門性を高めることを当病棟の目標に掲げ、各種セミナーや勉強会を開き日々研鑽しております。今後も患者さんの笑顔やご家族の安心した顔が一日でも早く訪れるように退院後の生活を考えながらスタッフ全員で看護していきたいと思っております。



目次 contents

- 6階南病棟を紹介します。…………… 1
- 放射線科で検査を受けるように
言われました。 ……2~3
- 看護師が答える病気相談コーナーを開設しています
三田町内会のお祭りに参加 …… 4

どうして
さんま通信なの？

目黒で野駈けをしていた殿様が、初めて召しあがる“さんま”にいたく感激。お城で再び食べてみたが、美味しくない。即座に『さんまは目黒に限る！』当院も“目黒のさんま”でありたいとの願いを込めて。

放射線科で検査を受けるように言われました。

.....

診療放射線科部長

若林 ゆかり

「放射線科で検査を受けるように言われましたが、被曝が心配です。」という方が結構いらっしゃるのではないかと思います。放射線に対する心配は今回の原発事故以前にも皆さん感じていらしかったのでは？なぜでしょう。もちろん日本には広島・長崎の経験があるので他国民より敏感ということもありますが、欧米の人も結構気になさいます。

19世紀の終わりにレントゲン博士がX線（謎の光線なのでこう呼ばれていました）を発見してからしばらくの間、放射線は「魔法の光線」として皆の関心を集めました。

図は、「元気になる放射線」のイメージを巧みに使ったゴルフボールや大衆薬の写真です。元気になる光線、科学時代の大発見として人気が出たために、今では考えられないような大量の放射線を子供に浴びせてしまったり体内に取り込んでしまったりして、がんが発生するという悲しい歴史がありました。このような経験や広島・長崎のデータなどから、現在では医療に使用するレベルの放射線については防護や使用方法に関する知識が非常に進んでいます。

さて、気になる検査での被曝です。大まかに言って診断用レベルの放射線（CTや胸部・腹部写真、胃や腸のバリウム検査）では、がんになることは無い、と申し上げてよろしいかと思います。

たとえば、毎日お腹の写真をとることがあります。入院している、手術をしたなどの大病であっても、毎日レントゲン写真を撮られたとなると、これは心配になります。このような場合には医者はこちら考えます：毎日レントゲン写真をとったらこの人が将来がんになる確率がほんのちょっとだけ上がるかもしれない。でも、可能性は非常に低い。今、レントゲン写真を撮らないで腸閉塞を見逃してしまったら、この人は確実に死んでしまう。だからきちんと写真を撮って診断しよう。

では、妊娠している人ではどうでしょう。妊娠中にうっかり腹部写真を撮ってしまった、妊娠を知らないでお腹のCTを撮ってしまった、などということがあると不安になってし

まうものです。でも、1回のレントゲンやCT撮影によって流産の危険が高まったり、奇形児が生まれるということはありません。では、なぜ妊娠中の放射線検査を避けるように言われるのでしょうか。

お腹が痛い時に放射線の検査をして原因がわかって治療できれば、お母さんには利益があります。でも、お腹の赤ちゃんには大して利益があるわけではなく、無駄に被曝しているだけです。たとえ天文学的に小さな可能性であっても無駄な被ばくで「将来悪性腫瘍になる可能性が、ちょっとではありますが、高まります」と言われたら嫌ですよ。ですから医者が診察して「そんなに大変な状態ではなさそうだな」と思ったら、お母さんには検査をがまんしてもらうわけです。

では、お母さんが交通事故でものすごい怪我をしたとしたらどうでしょう。このような場合には医者は患者さんの妊娠を知っていても躊躇なく放射線撮影をします。検査によってお母さんの命を救うことができれば、お母さんにもお腹の赤ちゃんにも利益があります。

このように、医者は放射線を使った検査をするメリット・デメリットを常に天秤にかけて考えます。また、実際に写真を撮影する診療放射線技師は、患者さんの被曝を最小にしようと努力して診断に役立つ写真を撮影しています。ですから安心して検査を受けていただきたいと思います。また、不安に思われることはその都度遠慮なくお尋ねください。



図左はX線印のゴルフボール。飛びそうです。右は「X線印の病気予防薬」。何を予防するのでしょうか。このほかにもX線ブランドの洗剤などが売りだされたそうです。

看護師が答える病気相談コーナーを開設しています

具合が悪くなった方、病気で通院中の方々の中には「自分の病気について誰かに相談したい」が、相談相手がいないことで悩んでおられる方も多いかと思われます。そこで、当院では経験豊かな看護師が、病気についてのご相談をお受けしております。医師ではありませんのでお答えできる範囲には限度があるかとは思いますが、お気軽にご相談ください。

電話相談	月曜、水曜、金曜	14時～15時
電話番号	070-5543-2257	
面接相談	火曜、木曜	14時～15時（予約制）
面接場所	1階総合相談室	



三田町内会のお祭りに参加

9月18日（日曜）、今年も恒例の三田町会のお祭りに参加しました。当日は天候にも恵まれ、三田町会の方々と職員が丸となり御神輿を担ぎました。例年同様に当院正面玄関前にも御神輿が練り歩き、入院患者さんにも雄姿を披露することができ、残暑厳しい日ではありましたが、良い一日となりました。



病院の理念

- ・私たちは、心の通った温もりを感じる医療を目指します。
- ・私たちは、組合被保険者ならびに地域の人々の健康と福祉に貢献します。
- ・私たちは、病院機能の充実を図り、サービス向上のため日々研鑽します。

基本方針

「健全な経営と安全で質の高い地域中核病院を創造する」

行動目標

- ・私たちは、患者さんから選ばれる病院を創り上げる。
- ・私たちは、効率的で質の高い安全な医療を構築する。
- ・私たちは、安心と誇りを持って働き、一番大切な人を受診させたい病院にする。

患者さんの権利

- ・最良の医療を受ける権利
- ・病気について、理解可能な言葉で説明を受ける権利とその説明に対して意見を述べる権利
- ・プライバシーが守られる権利
- ・転院の権利
- ・診療情報の開示を求める権利

患者さんの義務

- ・自己の療養に関して病院職員に協力する義務

